

長崎県農業共済組合

1. 長崎県の紹介

長崎県は九州の北西部に位置し、東は佐賀県に隣接して他は周囲を海に囲まれています。離島・半島地域が大部分を占め平坦地に乏しく地形が複雑で急傾斜地が多く、島の数では全国の14%にあたる島があり第1位、海岸線の延長は北海道に次ぎ全国第2位の長さを持つ特異な地形となっています。

気候は南西方向から暖流の対馬海流が流入してくるため、全般的には温暖で寒暖差も小さくなっています。しかし大陸に近いために寒波の影響を受けやすく、平年を大きく下回るほどに寒さが厳しくなることもあり、真冬日が観測されることもあり、本土地域においては数年に一度大雪に見舞われることもあります。

鎖国時代には、海外との貿易の唯一の拠点であった歴史的背景から、長崎県は西洋や中国などの影響を受けた独特な文化を形づくっています。長崎市街に残る洋館や石畳、平戸島や五島列島にも築かれたカトリック教会など、県内の随所に日本文化と海外文化の融合が見られ、県内には「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」と「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の世界遺産を有して多くの観光客が訪れる観光県でもあります。



2. 長崎県の農業

県内は平坦地が少なく、傾斜地が多く決して恵まれた環境ではないものの、地域の気候・特性を生かして様々な農産物が生産されています。農業産出額は約1,500億円です。主に畜産(36.8%)、野菜(29.9%)、果実(10%)が主なものとなっています。

県内は大きく6つの地域に区域が分かれ、それぞれの地域において特徴的な農業がおこなわれています。

県央地域においては、中山間地域を中心に温州みかんや生産量日本一のびわやお茶が生産され、平野を中心に水稲や麦・大豆・野菜が生産され、諫早湾干拓では大規模経営体による野菜や花きが生産されています。

島原地域は肥沃な土壌と温暖な気候に恵まれ県内を代表する農業先進地で、様々な野菜の生産や酪農、肉用牛の大規模生産が行われています。

県北地域は、中山間地域や離島半島からな



長崎びわ



温州みかん

り、水稲を中心に肉用牛、温州みかん、野菜、花きなどの複合経営が多く営まれています。

五島地域は、畜産・畑作中心の経営が多く、肉用牛や養豚、野菜や葉タバコの生産が行われています。

壱岐地域は、県内で二番目に広い平野があ



ばれいしょ

り、さらに大消費地である福岡市に近いという地理的優位性を活用して、水稲や野菜そして肉用牛の生産が行われています。

対馬地域は豊かな森林資源を生かした原木シイタケの生産や対州そば、対馬あか牛の生産など特徴的な農業が営まれています。



鬼木棚田

3. 長崎県農業共済組合（NOSA I 長崎）の概要

- 所在地：(本所)長崎県諫早市永昌東町22番10号
- 電話番号：0957-23-6161 (代表)
- 理事：22名
- 監事：3名
- 職員数：154名 (うち獣医師数：25名)
2023年4月1日現在
- 支所数：10支所 1出張所
- 診療所数：6診療所 1出張所



NOSA I 長崎本所

4. 長崎県農業共済組合（NOSA I 長崎）の活動

NOSA I 長崎は令和2年4月に長崎県農業共済組合が誕生して、同年5月に特定組合となり今年で5年目を迎えています。

近年は、過去に例をみない大規模な自然災害の多発に加え、国際情勢の変化に伴う穀物・資源等の価格高騰といった想定外のリスクが生じ、農業を取り巻く環境は厳しさを増しています。そういった状況下、国の農業災害対策の柱として自然災害による損失を補てんする「農業共済制度」と幅広いリスクを補

てんする「収入保険制度」の両輪で、農業保険制度を実施しています。また、令和5年4月より「安心を全ての農家に届けよう」を運動の目標に掲げ、「未来へつなぐ」サポート運動をスタートさせました。行動スローガンは「より身近に、より丁寧に、農家のもとへ」を設定し、農業経営の基幹的なセーフティネットとしての農業保険を、農業生産現場により深く浸透させ、全ての農業者に提供することを目標に取り組んでいます。